

【昭和38年卒 鉾山学科クラス会 in 彦根】

宗片 康修（鉾山 S38 年卒）

鶴首して、待ちに待ったクラス会の日がやって来た。

筆者は、5日前の木曜日夕刻に、右目がおかしい？と感じ、左目を閉じると、真っ暗、ほんの一角ほど光が差しているだけ、「やばい！緑内障だ」と思い、翌金曜日早々に眼科へ、検査に検査後、網膜剥離とのこと。手術の方法もあるが、見えるようにはなるだろうが、手術によるデメリットの方が増えるかもと、ならば、手術もしないで、伊達政宗で行こうと決めた。彦根への行程は、軽トラに高齢者マークを張り、家から10分ほど下を走るが後は、中国道と名神なので、下走るよりはるかに安全と思えるので、朝540出発、京都までは車も少なく全く安全、1140第一集合地「彦根駅」着、彦根駅と言えば今冬若い警察官が上司を撃つという事件のあった所、のすぐ近くの第二集合地「軽食喫茶」へ、そこにはすでに藤原君が。

次々と仲間がやって来て笑顔での握手。全員集合で14時発の竹生島クルージングへ、40分間の船旅。

竹生島入島、石段が上へ上へと続いている、足腰の弱っている筆者、登るまいと思っていたら、杖を頼り、足不自由な松下君が、利子さんの助言を受けながらもチャレンジする、なら私も頑張らねばと、同病相哀れみながら、どんじりで一段一段踏みしめ、手すりを頼りに、途中のお堂も院も目に入らず下ばかり見て、何と650段を二人とも踏破し、宝蔵寺本堂に参拝できた。元気な福永・本名両君は、沢山のお堂など寄り道しながら、ルンルンでお参りする余裕だ、昔から運動しているとは思えない二人だが強いものだ。下りも急坂に気を付けながら、武本幹事の慈愛に満ちた監視の下、最後に帰着、帰航船に揺られて、彦根港から1分ほどの「かんぽの宿彦根」に入宿、ゆっくり、手脚のびのびと落ち着いた。

入浴を済ませ、宴会場へ、お願いしていたスクリーンもセットされていて安心。今まで一名も欠けていなかった我らがクラス、前回の岡山からわずか二年の間に、津村・堀川・山田の3君が急に旅立ち、黙とうから開会。最遠来の田中君の音頭で乾杯、「かんぽの宿」は、JAF会員や簡保会員がいれば、全員にビールサービスがあり、愛大の「媛の酒」や戴き物の銘酒も持参していたが持ち込み料が非常に安くありがたい。近況報告と言うことで、筆者は網膜剥離の話、どなたにも二の舞をして欲しくないので、「毎朝目覚めた時、片目つむり視野に変化がないことを両眼それぞれに確認するように、一日がおろそかにできない場合があるので、毎日行う方習慣にし、異変あれば即刻医者へ」と「朝ご飯のおかずをしっかりと取るように」とも話した。全て、筆者の失敗経験を生かそうという事。また、今回急遽欠席の荒井・津田両君は奥様の体調不良とのこと、お元気を回復してもらいたいもの、岩田君はもう長く参加できていないがきっとパチンコへは行っているだろう（笑）との報告。酔いも回り、60年前の懐かしい歌詞をスクリーンに映し、渡辺君の「ミヨちゃん」は6

0年間この曲だけを歌い続けているので立派なものだ、荒井君の「乾杯の歌」も準備していたが欠席で聴けなかったのは残念！昔馴染んだ何曲かを高歌放吟、最後に「愛媛大学学歌」を♫に合唱、皆さんちゃんと覚えておられて、さすがにエリート。

宴会時間終了、部屋へ入り、二次会、年甲斐もなく遅くまで色々な話に花を咲かせ、歳はとったが気分は若い。

「かんぼの宿」は親方日の丸的な所があり、それだけに施設などが良く、中々良い宿だった（一寸CM）、幹事の武本・松岡両君に感謝！感謝！

二日目は、「国宝彦根城」へ。国宝のお城は、松本城・姫路城・松江城の四城だけ。これまた階段・階段・階段、登り口に準備されている杖を借りて登る、特に天守閣の最上階の急坂は、めっちゃ急！前日の竹生島で、山出君に「安全な手すりの握り方」を教わっていたので、早速役立った。天守閣をバックに集合写真。またも下りの階段、国宝だけに、手すりをつけることもできないのだろうし、川や琵琶湖岸からの丸石を並べた階段、筆者ら足が不具合者は足元注意でゆっくり下る。下り切った出入口横の博物館の濡れ縁で、生誕17年を迎えた「ひこにゃん」の出演時間、兜の下からのわずかな視野だから、ゆっくりとした動き、これが返ってすご〜く、か・わ・ゆ・い。大勢のお客さん、拍手したり、手を振ったりと満面の笑顔で喜んでおられた。

次は、お堀に隣接した「国名勝 玄宮楽々園」の散策。筆者は入り口近くのベンチに座り込み、散策を中止し松岡幹事とじっくり話をした。彼も、膝に弱点があり、歩くのにやはり、苦勞しているようだ。超元気な幹事だから、しっかり歩かせてくれる、有難いやら辛いやら（サザエさんにこんなくだりがを見た）。

『彦根城の後、玄宮園を見学：

玄宮園は、彦根城のすぐ近くにあり、4代藩主・井伊直興が造園整備したそうですが、近江八幡を模したといわれる園内は、よく整備され沢山の樹々が生い茂り、広大な池の中に4つの島が築かれて、そこには趣のある橋が架かっており、なかなか変化にとんだ回遊式の大名庭園です。なかでも、園内からの借景として仰ぎ見る彦根城天守の眺望は、絶景で、皆もしばし見とれていました。当日は、入園者も少なく、ゆったりと落ち着いた雰囲気で見回れることができ、心癒される散策でした。』（『 』内は田中記）

皆が玄宮園を散策して帰ってきたので、まずは、土産物店経由で昼食会場、そば処「つる亀庵（ツルキアン）」へ。お稲荷さんを戴くと真っ黒、味は稲荷さんに相違ない、「黒い色は？」と聞くと竹炭粉を練りこんであるとのこと。納得！その後、ざる蕎麦も暖かい蕎麦もと好みに応じて食し、最後に健康効果満点の蕎麦湯で蕎麦汁のおいしさを堪能、次回は松山での「愛大ホーム・カミングデイ」に合わせての開催に決定、その後、時間ぎりぎりまで色々雑談に花と笑い声、彦根駅で次回

の再開を約し解散、それぞれの家路へ向かう者、ついでにと近隣の寺社めぐりをする元気なものなど、非常に楽しい有意義なクラス会であった。

それにしても、78歳前後だが皆、明るく・元気、皆さん幸せな証拠だ。

2年後の松山クラス会が今から、た・の・し・み。 (宗片記)



乗船前



玄宮園